

企業の不正対策を稼働させる 不正対応活動のポイント

—内部監査が準備すべき不正対応活動と企業の不正対策との関わり方—

「内部監査実務マスター・コース」〔第3回開催分（全9会合）〕

- 日 時 ● 2017年11月16日（木）14:00～17:00
- 会 場 ● 東京・麹町 企業研究会『セミナールーム』
- 講 師 ● 藤井 範彰氏 公認会計士・公認内部監査人・米国公認会計士（現在 inactive）

大手監査法人で20年近く会計監査に従事し、その間、法人内の会計監査アプローチの普及・研修活動や公認会計士協会本部の委員会活動にも専念。その後十余年は、アンダーセン、PwC及びE&Yの監査法人で内部監査、内部統制、リスク管理、不正調査等に特化。新日本監査法人シニアパートナーを2012年に退任後はボルボグループで日本の内部監査統括の経験も経て、現在も同グループ会社UDトラックスの監査役として監査に従事。また藤井範彰公認会計士事務所代表として内部監査等の研修・執筆活動にも従事。著書「内部監査のプロが書く監査報告書の指摘事項と改善提案」2016年同文館出版、「内部監査の課題解決法 20」2012年税務経理協会、論文「内部監査報告書の本質論と実務対応～監査の指摘事項と改善提案をめぐる問題」日本内部監査協会「月刊監査研究」2017年5月号、「海外監査の検討課題～成熟度レベルに応じた問題認識と対応」同2013年11月号、「リスクマネジメントに対する内部監査の対応～最適化シナリオに向けて」同2012年3月号掲載、他多数。

●プログラム●

■講義／企業の不正対策を稼働させる不正対応活動のポイント <14:00-16:30>

大手企業の不正事件が相次いで報道される中、内部統制が整備された大企業でなぜ不正が起こるのかという疑問の声が上がっています。そこで必要となるのは組織の不正対策の制度の在り方をゼロベースで見直し、内部監査をはじめ関連部門の役割や活動の方向を見定めることです。

内部監査としては不正リスクにフォーカスした不正監査の方法を整備するとともに不正調査や不正リスク評価などへの関与にも備え、更には通報制度や事業部門・子会社におけるガバナンスや企業風土を対象とした監査への対応能力も必要となります。今回は企業の不正対策の在り方を内部統制、リスクマネジメントおよび日本の監査制度の面から検討した上で、そのハード面の対策に実効性を与えるソフト面の不正対応活動を不正リスク評価、不正監査および不正調査の側面から解説します。不正調査後の内部統制レビューなど内部監査の関与が重要な領域です。

1. 企業の不正対策のポイント

- ・不正リスクとコントロールおよびガバナンスとの関係—マクロとミクロで考える不正対応
- ・企業の不正対策の考え方と実務展開

2. 制度を動かす不正対策活動の実務のポイント

- ・不正リスクの評価の進め方
- ・内部監査による不正リスク対応
- ・不正調査、通報対応、不正調査後の内部統制レビュー

■講義をベースとしたディスカッション&総括コメント<16:30-17:00>

～自由討議・意見交換の中から課題解決のノウハウ、ヒントを探り実践に繋げていただきます～

●参加要領●

●受講料：1名（資料代含む）

正会員	31,320円	一般	34,560円
-----	---------	----	---------

[本体価格 29,000円 本体価格 32,000円]

* 会員企業一覧は以下の当会のホームページにて、ご確認いただけます。http://www.bri.or.jp

申込書に所定事項ご記入の上、下記担当者あて FAX または E-mailにてお送りください。

折り返し、受講票・会場略図・請求書をお送り致します。

※お申込後のキャンセルは原則としてお受けしかねますので、お申込者をご出席頂けない際は、代理の方のご出席をお願い申し上げます。

●申込先（社）企業研究会

担当）居代 E-mail:ishiro@bri.or.jp

〒102-0083 千代田区麹町 5-7-2

TEL 03-5215-3516/FAX 03-5215-0951～2

170188	2017 11/16	内部監査実務マスター・コース	
会社名			
住所	〒		
TEL	FAX		
部課 役職		フリガナ お名前	
e-mail			
部課 役職		フリガナ お名前	
e-mail			